

令和 7 年 度 徳 島 市 助 任 小 学 校 総 括 評 価 表

学校教育目標 自主性・社会性・創造性に富み、確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく生きる子どもの育成

重点課題	重点目標	自己評価 評価指標と活動計画	評価 評価	学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題 今後の改善方策
1 自ら学び、考え、行動する子ども(知)	①「主体的・対話的で深い学び」の実現により学力向上を図る。 ② タブレット端末等の有効活用を促進し、授業改善を行う。 ③ 読書習慣を確立する。	評価指標 ①児童用アンケート(授業はよく分かる)で肯定的評価が8.5%以上 ①自己評価項目の(個に応じたきめ細かい指導)で肯定的評価が8.5%以上 ①自己評価項目(思考力・表現力・活用力等の育成)で肯定的評価が8.5%以上 ②自己評価項目の(タブレット端末等を有効に活用)で肯定的評価が7.0%以上 ③自己評価項目(読書習慣の確立を図る)で肯定的評価が8.5%以上 ③児童用アンケート(本をよく読む)で肯定的評価が7.0%以上 活動計画 ①教材研究に努め、指導方法を工夫し、わかりやすい授業を行う。また、聞き方、話し方を指導したり、話し合いの目標を明らかにして個々の考えを伝え合う場を意図的に設定したりする。 ②タブレット端末の効果的な活用についての研修を実施し、授業で日常的に活用する。 ③ PTA による図書室の本の整理と増冊を行い、魅力ある読書環境を整え、読書習慣の確立を図る。	評価指標の達成度 ① 9.4% (R6)→ 9.3% (R7) ----- ① 9.8% (R6)→ 9.5% (R7) ----- ① 9.6% (R6)→ 10.0% (R7) ----- ② 7.3% (R6)→ 6.2% (R7) ----- ③ 9.1% (R6)→ 8.1% (R7) ----- ③ 6.6% (R6)→ 6.4% (R7)	総合評価 (評定) A (所見) 概ね評価指標を達成できたが、達成していない項目については継続的に改善・重点指導が必要である。 社会科研究の推進にともない、思考力、判断力、表現力に一定の成果が見られるものの、指示待ち、受け身や他者依存の態度もよく見られることから、引き続き授業改善の推進が必要である。タブレット端末の授業中の活用も頻度内容ともに向上しているが、接続状況の不具合等で活用が滞ることもあった。3学期より iPad を活用し、より効果的な活用を促進していく必要がある。 読書習慣の確立については、ここ数年の課題である。図書室の充実のみならず、読み聞かせ等の機会を設ける試みも必要である。	授業で勝負する共通目標で、教育に誠実に向き合っている成果が見られる。 一方で、手に入る情報で満足するあまり、自分で調べたり、深く学ぼうとする意欲が不足している。 授業では、協働的な学びを実現するタブレットの活用を全教職員でさらに進めていくとともに、家庭では、漢字や計算等、基礎の定着を図る。 図書館サポーターを活用したり、図書の充実を図ったりすることで、環境整備に努め、読書時間を確保するとともに、読み聞かせの活動も効果的、継続的に取り入れ、読書にふれる機会を増やすようにする。
		総合評価 (評定) B (所見) 評価指標を達成できた。教員が児童個々のよさを認めることで、自尊感情を高めるとともに、児童がお互いのよさに気づき認め合う仲間づくりを行った。しかし、自分に自信がもてず、自尊感情が低い児童も多い。また、一部友達のことを傷つける児童の言動が見られる。今後も、より一層個々の児童への丁寧な支援や仲間づくりを通して、思いやりや社会性の育成に努めていく。			
2 思いやりのある子ども(徳)	①全ての領域で人権感覚を磨き人権尊重の精神を寛容する。 ②よりよい仲間づくりを通して、思いやりの心や社会性を育成する。 ③道徳教育を充実し、よりよく生きるために必要な資質・能力を育成する。	評価指標 ①自己評価項目(人権感覚を磨く)で肯定的評価が8.5%以上 ②自己評価項目(よりよい仲間づくり)で肯定的評価が8.5%以上 ②保護者用アンケート(やさしく思いやりがある)で肯定的評価が8.5%以上 ③自己評価項目(道徳的実践力の育成)で肯定的評価が8.5%以上 活動計画 ①普段の学校生活の中で常時指導や人権学習により、系統的・継続的に指導していく。 ②日々の生活指導や元気タイム、各種行事の中で、よりよい人間関係の形成に配慮していく。 ③道徳科の時間をはじめ全教科や領域の中で、道徳的な指導を工夫して行う。	評価指標の達成度 ① 10.0% (R6)→ 10.0% (R7) ----- ② 10.0% (R6)→ 10.0% (R7) ----- ③ 9.4% (R6)→ 9.5% (R7) ----- ④ 10.0% (R6)→ 9.5% (R7)	総合評価 (評定) B (所見) 評価指標を達成できた。教員が児童個々のよさを認めることで、自尊感情を高めるとともに、児童がお互いのよさに気づき認め合う仲間づくりを行った。しかし、自分に自信がもてず、自尊感情が低い児童も多い。また、一部友達のことを傷つける児童の言動が見られる。今後も、より一層個々の児童への丁寧な支援や仲間づくりを通して、思いやりや社会性の育成に努めていく。	いじめや生徒指導が、深刻化、長期化するのではなく、初期対応により解決することができた。優しさ、思いやりなど、人間関係づくりや集団生活で大切にしないといけないことを理解しているのだが、実生活では、心ない言葉や人を傷つける言葉を使っている場面をよく見かける。
		総合評価 (評定) A (所見) 評価指標を達成できた。体育授業の充実やおはよう元気タイムの実施、外遊びの奨励を通して、児童の体力向上を図った。			
3 たくましい子ども(体)	①運動への意欲を喚起し、技能や体力の向上を目指す。 ②健康教育や食育を充実し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。	評価指標 ①自己評価項目(運動する意欲と能力の育成)で肯定的評価が8.5%以上 ①児童用アンケート(健康管理や体力づくり)で肯定的評価が8.5%以上 ②自己評価項目(望ましい食育の推進を図る)で肯定的評価が8.5%以上 ②自己評価項目(保健安全教育の充実)で肯定的評価が8.5%以上	評価指標の達成度 ① 9.6% (R6)→ 9.5% (R7) ----- ② 8.7% (R6)→ 8.9% (R7) ----- ③ 10.0% (R6)→ 10.0% (R7) ----- ④ 10.0% (R6)→ 10.0% (R7)	総合評価 (評定) A (所見) 評価指標を達成できた。体育授業の充実やおはよう元気タイムの実施、外遊びの奨励を通して、児童の体力向上を図った。	外遊びの習慣があり、朝早くから外で遊んでいる様子をよく見る。 給食も、どの学年もよく食べ、比較的残食も少ない。 体育主任を中心に体力づくりを計画的に推進する。 また、エビペンの使用や配慮の必要な児童の共通理解等、学校給食アレルギー対応の研修に取り組み、安
		総合評価 (評定) A (所見) 評価指標を達成できた。体育授業の充実やおはよう元気タイムの実施、外遊びの奨励を通して、児童の体力向上を図った。			

		<p>活動計画</p> <p>①楽しみながら運動に取り組むことを通じて技能や体力を向上させる学習内容・方法・指導を工夫する。</p> <p>④食育や健康教育を充実させ、健康で安全な生活を営む力を育成するよう努める。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①授業では個々にめあてを持たせるとともに、意欲的に運動できるよう学習活動を工夫した。陸上や水泳記録会等の体育的活動への参加機会を充実させている。</p> <p>③食育だよりや保健便り等を発行し、家庭と協力しながら食育・健康教育を行った。</p>	<p>また、発達段階に応じて食育や健康の授業も適宜実施することで、望ましい生活習慣の定着に繋がった。学校保健安全委員会を実施し、健康保持増進について学校全体で共通理解を図った。</p>	<p>心・安全な給食を徹底する。 本校の健康課題を明確にし、保護者や地域と連携を進め課題解決を図る。</p>
4 生徒指導の充実	<p>① 基本的生活習慣の確立</p> <p>② 不登校やいじめの未然防止及び関係機関との連携による早期発見・対応</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価項目(挨拶と正しい言葉遣い、清掃活動)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>②児童用アンケート(学校に行くのが楽しい)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>②自己評価項目(地域・家庭、関係諸機関との連携)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①あいさつ・正しい言葉遣い・清掃の継続的指導を実施。</p> <p>②児童と教師及び児童間の良好な人間関係を築き、共感的な指導の充実を図るとともに、魅力ある学校づくりに努める。</p> <p>②家庭との連携を密にし、適宜校内でケース会議を開き、問題解決のための具体的な協議を行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 挨拶, 言葉遣い 100% (R6) → 100% (R7) 清掃活動 9.8% (R6) → 9.5% (R7)</p> <p>② 94% (R6) → 95% (R7)</p> <p>② 98% (R6) → 100% (R7)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①教職員や生活委員会であいさつ運動を実施している。</p> <p>②どの学年もトラブルはあるが、その都度発達段階に応じて共感的に指導を行った。個々の児童への丁寧な関わりや教育活動の工夫を通して、魅力ある学校づくりに全教職員で取り組んだ。</p> <p>②担任が不登校傾向の児童に丁寧に関わったり、SCやSMSなどの制度を活用したりすだち学級など外部機関と連携したり組織的に対応した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) 評価指標は、達成できた。 あいさつや言葉遣い、無言清掃などは意義指導も含め、継続して指導を行うことが求められる。 いじめや不登校の早期発見が課題。引き続き子どもたちが「学校に行くのが楽しい」と思える学校づくりをめざすとともに家庭との連携も重要。また外部機関との連携も行いながら長期的に粘り強く対応する。</p>	<p>学校に行くのが「楽しい」と思えることが学力向上や体力向上、生活習慣の習得には一番大切。 どの学年にも不登校や登校しぶりの児童がおり、今日的課題である。 対話による問題解決を軸に、児童指導、保護者対応を行った結果、早期の解決につながった。</p> <p>挨拶や言葉遣い、清掃活動等についての指導のあり方を全教職員が共通理解し継続して取り組んでいく。 不登校やいじめの早期発見に努め、家庭と連携しながら対応していく。 状況に応じてSCやSSWとも情報共有して組織的な対応を図る。</p>
5 特別支援教育の推進・充実	<p>① 支援体制のさらなる充実</p> <p>② 一人ひとりのニーズに応じた指導・支援</p> <p>③ 家庭・地域・関係機関等との連携</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価項目(校内支援体制の整備充実)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>②自己評価項目(一人一人のニーズに応じた指導)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>③自己評価項目(家庭・地域・関係機関等との連携)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①支援体制の整備を進め、特別支援教育を推進・充実する。PBSの手法を取り入れ、全ての児童に適切な支援を行う。</p> <p>②特別な支援が必要な子どもについて、全職員で共通理解し、個に応じた支援をしていく。</p> <p>③家庭や外部機関と連携して個別の対応を行っていく。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 100% (R6) → 91% (R7)</p> <p>② 98% (R6) → 100% (R7)</p> <p>③ 98% (R6) → 100% (R7)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①ポジティブな行動支援の手法を取り入れ、通常学級においても適切な支援が行えるよう努めた。適宜校内支援委員会やケース会議を開き、支援の方向性を協議した。</p> <p>②年度当初に児童理解研修を行い、個別に保護者と相談しながら支援をすすめている。</p> <p>③家庭との連携を密にするとともに、必要に応じてSCやSSWや児童相談所等、各専門機関と連携し対応した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>(所見) 評価指標は、達成できた。 特別支援学級在籍児童はもちろん、通常学級にも支援が必要な児童が年々増加している。ポジティブな行動支援の手法を取り入れ、全ての児童への支援を行うとともに、個々の状況に応じ、家庭・関係諸機関と連携しながらきめ細かい支援を引き続き行っていくようにする。</p>	<p>一人一人の児童理解にもとづく学びの最適化を心がけ、丁寧な指導により、児童、保護者から信頼を得る結果となった。</p> <p>また、ポジティブな行動支援を継続し、通常学級での適切な支援の充実も図る。</p>
6 信頼される学校づくり	<p>① 安全・安心な学校への改善・努力</p> <p>② 保護者・地域との連携</p> <p>② 全教職員による協働体制の確立「組織的対応」</p>	<p>評価指標</p> <p>①自己評価項目(安全・安心な学校への改善努力)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>②保護者アンケート(保護者や地域との連携)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>②自己評価項目(協働体制の充実)で肯定的評価が8.5%以上。</p> <p>活動計画</p> <p>①登下校の安全対策について、積極的に努める。学校内の環境を整備し、事故防止に努める。</p> <p>②学校評価アンケートや学校運営協議会からの意見を今後の学校運営に生かす。</p> <p>③学年会、職員会、終礼等で共通理解を図る。「報告・連絡・相談」で、トラブル等は一人で抱え込まず、まずは学年内で共通理解を図り、学年→管理職の組織対応を行う。そして現状を全職員で共通理解できるようにする。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 100% (R6) → 95% (R7)</p> <p>② 86% (R6) → 87% (R7)</p> <p>③ 協働体制 98% (R6) → 85% (R7)</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①教員による交通立哨や下校パトロール、地域や保護者による登下校指導を実施。児童の健全育成に関する事業を推進している。</p> <p>②アンケートから見える課題をつかみ、学校運営協議会を開催し、学校教育に関する意見聴取をし、学校運営に活かしている。</p> <p>③校内委員会の開催等で、学年における課題の共通理解を徹底し、組織的対応を行っている。しかし、異学年同士が共通理解をする時間の確保が難しい現状もある。可能な範囲において共通理解を図り、風通しのよい職場環境づくりを意識づけるようにしている。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>(所見) 評価指標は、概ね達成できた。 開かれた学校の実現に向けて運動会やオープンスクール等の行事を保護者や地域に公開して実施し、性教育についての講演会や学校と保護者をつなぐ子育てについてともに学ぶ会の機会を設けた。 学校・保護者・地域および関係諸機関が連携することで、子どもは安全・安心な学校生活を送ることができた。今後も、丁寧な情報発信に努めていきたい。</p>	<p>子どもの見守りについて、保護者や地域の協力により、登下校の安全な環境が保持されている。ただ、そのような協力により、自分たちの生活は守られ、支えられていることに子ども達自身が気付かず、そのことを当たり前に思っている。軽微な交通マナー違反や迷惑行為が見受けられる。 立哨やたくさんの場所に立ってくださることに感謝したい。</p> <p>開かれた学校に向けて、学校行事の公開を今後も継続するとともに、学校ホームページや連絡用アプリを活用して情報開示に努める。 登校時の交通立哨や下校パトロール等、安心で安全な街づくりに保護者や地域と連携して取り組む。</p>

「評定」の基準 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった